アーバンNOW

ピアス皮膚炎

侮らないで

耳たぶに小さな孔（あな）を開け取り付けるピアス。アクセサリーのひとつとして、日本でも月に十万人ペースで愛用者が増えているといわれるが、時にはピアス皮膚炎というトラブルも引き起こす。おしゃれ心も大事だが、体への影響も考慮する必要がある。ピアス皮膚炎の実態と予防法を探ってみた。

自己流孔開けは危険

症例1・OL（27）　六年前に、アクセサリー店で十八金のピアスを購入し、そこで耳に孔を開けてもらった。一カ月すれば完成すると聞いていたが、いつまでたっても孔がジクジクして治らない。膿（うみ）を出してはピアスを付けるという状態を二年間続けていたが、治らないのでやめた。そのうち孔がふさがってしまった。一カ月前にもう一度開けたら、翌日になったら耳が真っ赤になってかぶれた。

症例2・学生（22）　二年前にピアスの孔を開けた。一度は孔が完成したが、セータ　ーを脱いだり、タオルで髪をふいたりした時にピアスを引っ掛けてしまい、孔を傷つけてしまうことがしばしばあった。そんなことを繰り返しているうちに、孔の周りが硬くなってきて約十ミリのコブができ、耳が大仏様のように大きくなってしまった。

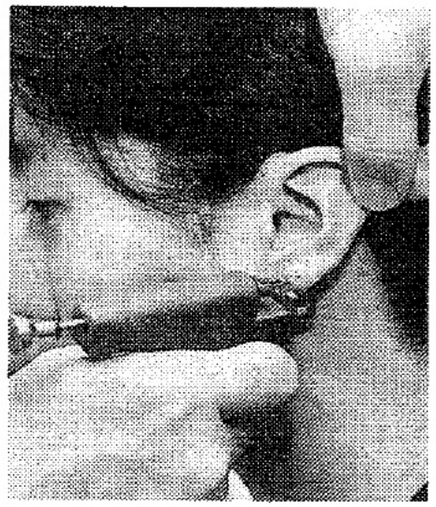
「症例1は金属アレルギーにかかってしまったケース、症例2はピアス皮膚炎を放置しておいて耳たぶにしゅようができてしまった患者さんです」。こう説明する池袋ピアスセンター（東京）の高橋知之医師のもとには、多いときは日に三十人近いピアス皮膚炎の患者が訪れる。

ピアスの孔を開けるのは本来、医療行為であり、医師に頼むのが原則。ただ、氷で冷やすなどして耳の感覚をまひさせれば、比較的痛みもなく孔を開けられるため、太い針などを使って自分で開ける人も少なくない。

しかし、自分で開けた孔が小さすぎると、傷口から出たリンパ液がスムーズに外に出ず、孔の周囲に停滞してしまう。そこにばい菌が侵入して化のうする。

さらに、化のうしてジクジクした状態をほうっておくと、そこに金属アレルギーになる可能性が高くなる。「ピアスを付けている人は、付けていない人の十倍の頻度で、金属アレルギーの抗体がみつかったというデータもある」と日本臨床アレルギー研究所の高島宏哉副所長は指摘する。

日本でもかなり一般的になってきたピアスだが、欧米諸国にくらべ、まだ不慣れな面が多い。孔開けと同時にピアスが装着できるピアスガンが急速に普及してきた。トラブルを少なくするには、自己流の孔開けはやめ、ピアスガンを使って医師に孔を開けてもらうなど、きちんとした手続きをとることが最低限は必要といえそうだ。



ピアスガンで孔を開け、ピアスを耳に通す（東京・豊島区の池袋ピアスセンターで）

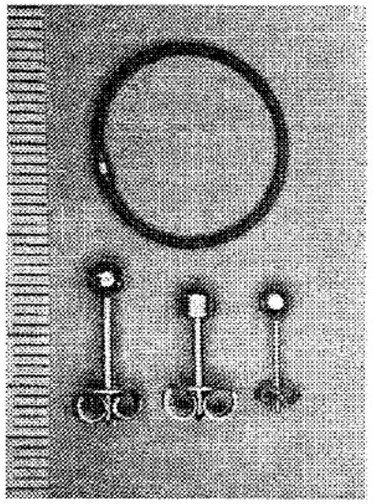
小さな孔でも

金属アレルギー「医療用」で防ぐ

化のうしたら△▼シリコン製も

金属アレルギーの主な原因は、ピアスやネックレスなどのアクセサリーに含まれているニッケルやクロム、コバルトといった金属。体温で蒸発したり、汗で溶け出したりして、傷口や毛穴から体内に入った金属は、たんぱく質と結合して化合物を作る。するとリンパ球がそれを異物とみなして攻撃するため、赤みやむくみなどのアレルギー症状を起こす。

ピアスの孔を完成させるには少なくとも一カ月かかる。その間、ピアスの孔からリンパ液などのしん出液をスムーズに排出することが、化のうや金属アレルギーを防ぐこつだ。そのための手段として開孔時から孔が完成するまで装着する医療用ピアスがある。



シリコン製治療用ピアス（上）と（下の右から）18金ピアス、医療用ピアス、耳たぶが厚い人のための軸長医療用ピアス

医療用ピアスは、ステンレスに純金（二十四金）をコーティングし、アレルギーを起こしやすい金属を排除している。また軸の太さが一・二五ミリと、通常のファッションピアス（約〇・六ミリ）に比べてかなり太く、しん出液がスムーズに出やすくしている。長さも、耳たぶの厚い人のために八ミリ（通常六ミリ）のものが用意され、留め金で強く締め付けられずにすむ。

「アクセサリー店の中には、初めてピアスの孔を開ける人に、十八金ピアスを勧めるところがあるがそれは間違い。十八金ピアスの表面には、ニッケルやコバルトなどアレルギーの原因になりやすい金属がコーティングされているので、完成していないピアス孔にするには不適当。それに軸が細いためしん出液が外に出にくく、化のうしやすい」（高橋医師）という。

池袋ピアスセンターを訪れる患者のトラブル発生率を調べたところ、十八金ピアスが三一・五％に対し、長さ八ミリの医療用ピアスの場合一・九％という結果が出たという。

ただ医療用ピアスを使用したらあとは安心というわけではない。

ピアスの孔が完成するまでは、ピアスに衣服などを引っ掛けて傷を大きくしないよう注意する。指で液を押し出したり、ピアスをよく動かしたりして、しん出液を外に出すことも大切だ。

消毒も時々する必要がある。ただ消毒液をきちんとふき取らなかったり、使い過ぎたりするとかえってかぶれの原因になる。また生傷にはアルコールが入った消毒液は刺激が強すぎる。「最近、アルコールが入っていないゼリー状の消毒剤が市販され始めたので利用してみるのもいいでしょう」と高橋医師。

化のうしてしまった場合、ピアスをはずして治療するのが一番簡単な方法だが、孔はふさがってしまう。「傷は治したいが、ピアスの孔は残したい」という女性向けには、シリコン製イヤリングを利用する方法がある。これを耳に取り付けながら医師の治療を受ければ、約二カ月で孔を残したまま完治するという。金属アレルギーの心配もなく、また素材が柔らかいため傷口を刺激しないのが特徴だ。

URBANナウ